

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」

同中生の活動が京都新聞で紹介されました！

京都新聞 2019年8月24日付 朝刊に掲載

京都の豊かな森守ろう

台風倒木被害復興の力に
同志社中生 市森林組合に義援金

昨年の台風21号による森林被害の復興に役立ててもらおうと、同志社中（京都市左京区）の生徒が募金に取り組み、23日に京都市森林組合（北区）を訪れて義援金を手渡した。

地域活性化を目的に同中と叡山電鉄が協同で取り組む「八幡前駅プロジェクト」メンバーの2年生4人が訪れた。同電鉄沿線でも台風による大きな倒木被害が出たことを知った生徒たちが「力になりたい」と、昨年11月から募金活動を始めた。

田中組合長は「京都の文化は森林や山から発展してきた。倒木に焦点を当ててもらいたい」と感謝した。短田さんは「被害は大きく、復旧は少しずつで大変だと感じた。地域の人の役に立つように使ってもらえたら」と話した。
(小林沙恵)



田中組合長に義援金を手渡す同志社中の生徒たち
(京都市北区・市森林組合)

京都市森林組合への募金寄付で感謝状をいただきました！

8月23日(金)に、京都市森林組合さんにて、2018年に発生した台風21号による災害復興募金活動で集めた募金を寄付してきました！森林組合さんのご厚意で贈呈式も開いてくださり、「感謝状」もいただきました。

金額の大小ではなく、地域に根差した取り組みや、それによって気づくことができた森林保全活動への支援意識その「志」に感謝を表したいとのメッセージもいただき、中学生メンバーの活動と思いがまた一つ実った今日でした。

叡電 八幡前駅とその地域を魅力化し、最終的には地域の交流の場として駅を機能させ、駅利用者や地域住民による持続可能な駅を生み出す。そのゴールを設定して、自主的な中学生の集団でデザイン思考のプロセスをベースに取り組んでいる八幡前駅プロジェクト。その一手として目下取り組んでいるのは、駅ホームに「待合室」を創出し、多目的なコミュニティスペースとすること。昨年夏の台風21号による沿線の甚大な倒木被害は、提案活動を進めているさなかに発生しました。叡電の被害が大きく、「待合室」提案の検討は中断してしまいました。

叡電の総務部長から、被害の実態もご説明いただいた中学生メンバーは、「何か私たちにできる支援はないか？」と考え、募金活動を提案したところ、「確かに、叡電が大変な被害を受けたのだけど、倒木被害は、沿線の森林保全の弱体化に起因していて、本当に大変なのは森林組合さんですよ」と教えていただき、気づきを得ることができました。それならば、京都市森林組合さんを支援する募金活動をしよう！そうして、2018年冬から2019年春にかけて、中学生による募金活動が行なったのです。プロジェクトとして駅ホームで実施した地域交流イベントでも募金活動を行い、駅利用者や、地域住民の皆さんからの募金もいただきました。また、同志社中学校内でも礼拝でのアピールも行い、募金を集めました。

